

琵琶湖・淀川流域と韓国・洛東江流域を素材にした流域管理政策の日韓比較研究

1. プロジェクトメンバー

中村 正久 環境総合研究センター・教授
只友 景士 経済学部・助教授
中野 桂 経済学部・助教授
遠藤 修一 教育学部・教授
李秀 澈 名城大学・助教授（滋賀大学客員教授）
金淳 植 学術振興会・外国人特別研究員

2. 研究の目的と計画

韓国・啓明大学と本学との研究交流の一環とし、琵琶湖・淀川水系と韓国の洛東江水系を対象にし、流域管理政策(制度・組織・体制、政策、技術的取り組み、河川環境、利害関係者の参加、財政など)の日韓比較研究を行う。とくに韓国研究機関の主要な関心事である河川水質の管理や改善については、琵琶湖・淀川水系におけるこれまでの経験の集約と情報の共有が重要である。一方、本プロジェクトの主要な関心事である、自然あるいは人工的な停滞水域を含む流域の統合的な管理やガバナンスの向上については、洛東江水系をはじめとする韓国の取り組みを様々な角度から分析することによって新たな研究展望を切り開くことが可能となる。

3. 今年度の活動状況

本年度は洛東江の流域管理計画について、その歴史的経緯と現状の把握を行うと共に、統合的流域管理という視点から韓国の水管理政策、流域管理機関、流域管理制度(水利用負担金、水辺区域制度、水汚染総量管理制度)について情報を整理し(名城大学・李秀澈氏)比較研究の枠組みを検討した。また、本学関係者の他、名城大学、大阪市、国際湖沼環境委員会、農事組合法人平林エコファーム関係者の参加を得、韓国大邱市において研究交流セミナーを開催した。とくに汚濁負荷の総量管理については、その法制度及び行政の仕組みについて瀬戸内海の総量規制、琵琶湖の湖沼水質保全計画を材料に話題提供を行うとともに、今後の研究協力計画について意見交換を行った。

洛東江現地調査および日韓研究セミナープログラムは以下の通りである。

a) 日程

2/19 : 韓国・釜山入国, 大邱到着
2/20 : 洛東江現地調査 (午前), セミナー開催
(午後、於大邱慶北研究大会議室)
2/21 : 洛東江現地調査 (一日)
2/22 : 大邱出発, 韓国出国(午後)

b) セミナープログラム(2月20日、13:30~18:00)

- 第1部 日本の流域管理政策(13:30~14:45、
司会: 李秀澈)
- ◆ 両国の研究グループ代表の挨拶(中村、韓国代表)
 - ◆ 琵琶湖汚染総量管理経験と課題など(深田富美男・T. Ballatore)
 - ◆ 瀬戸内海の汚染総量管理経験と課題(古川清)
 - ◆ 下水道財政と流域管理政策(只友景士)
- 質疑、休憩
- 第2部 韓国の流域管理政策(15:35~16:45、
司会: 申斗燮)
- ◆ 洛東江水系流域管理現況及び課題(朴培景)
 - ◆ 洛東江水系汚染総量管理経験と課題(南光鉉)
 - ◆ 質疑
- 第3部 総合討論(参席者指定討論)(16:45~18:00、
司会: 李秀澈)
- ◆ 提供話題の総括と主要課題の提示(李秀澈教授)
 - ◆ 金秀峰、李昌洙、中野桂、成耆達各先生から問題提起
 - ◆ 全体討論
- ### c) 本プロジェクトが提案した包括協議の課題
- ◆ 統合的湖沼流域管理の東アジア拠点構想について
 - ◆ 流域管理における財政政策の国際比較について
 - ◆ GPIによる流域管理の持続可能性分析について
 - ◆ 日韓の流域管理制度の歴史的変遷と課題について